

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>由良川河川改修事業 (福知山地区) 近畿地方整備局</p>	<p>・平成26年8月豪雨に対して、法川、弘法川の由良川本川への排水能力が不足。</p>	<p>・頻発する内水氾濫に対する法川・弘法川流域の治水安全度の向上。</p> <p>・このうち、国においては、年超過確率1/30規模の降雨が発生した場合において床上浸水被害を概ね解消。</p>	<p>・国、京都府、福知山市が連携し、平成26年8月豪雨と同規模の降雨が発生した場合でも、床上浸水被害を概ね解消するため、国の対策として年超過確率1/30規模の降雨が発生した場合において床上浸水被害を概ね解消するために複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・由良川中流の福知山市街地での適用性を考慮して、「排水機場を中心とする案」「放水路を中心とする案」「河道内の貯留を中心とする案」を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価。</p> <p>(案1) 排水機場を中心とする案 ・ポンプ増強 (27m³/s)</p> <p>(案2) 放水路を中心とする案 ・放水路新設 (L=3.1km) ・支川拡幅 (L=1.2km)</p> <p>(案3) 河道内の貯留を中心とする案 ・河道掘削 (79万m³)</p>	<p>3案のうち、「コスト」について最も有利な案は、「排水機場を中心とする案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、「排水機場を中心とする案」による対策が妥当。</p>

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>那賀川河川改修事業 (加茂地区) 四国地方整備局</p>	<p>・平成26年8月の台風11号に対して那賀川の流下能力が不足（加茂地区付近）。</p> <p>・洪水を安全に流下させるために必要な堤防が未整備。</p>	<p>・平成26年8月の台風11号と同規模の洪水が発生した場合においても、外水氾濫による家屋の床上浸水被害を防止。</p>	<p>・平成26年8月の台風11号と同規模の洪水が発生した場合においても、外水氾濫による家屋の床上浸水被害を防止するために複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・那賀川（加茂地区）での適用性を考慮して、「築堤を中心とする案」「輪中堤、宅地嵩上げを中心とする案」を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。</p> <p>(案1) 築堤を中心とする案 ・那賀川本川築堤＋加茂谷川バック堤防</p> <p>(案2) 築堤を中心とする案 ・那賀川本川築堤＋樋門＋排水機場</p> <p>(案3) 輪中堤、宅地嵩上げを中心とする案 ・加茂地区輪中堤＋宅地嵩上げ</p>	<p>3案のうち、「コスト」について最も有利な案は、「築堤を中心とする案 那賀川本川築堤＋加茂谷川バック堤防」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、「築堤を中心とする案」による対策が妥当</p>

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>仁淀川河川改修事業 (宇治川) 四国地方整備局</p>	<p>・平成26年8月の台風12号、台風11号に対して、宇治川の仁淀川本川への排水能力が不足。</p>	<p>・国・高知県・いの町が連携し、平成26年8月の台風12号と同規模の降雨が発生した場合においても、床上浸水被害を防止。</p> <p>・このうち、国においては、年超過確率1/10規模の降雨が発生した場合において、床上浸水被害を防止。</p>	<p>・国、高知県、いの町が連携し、平成26年8月の台風12号と同規模の降雨が発生した場合においても、床上浸水被害を防止するため、国の対策として年超過確率1/10規模の降雨が発生した場合において床上浸水被害を防止するために複数の治水対策案を立案した。</p> <p>・宇治川での適用性を考慮して、「排水機場を中心とする案」「放水路を中心とする案」「洪水調節施設を中心とする案」を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。</p> <p>(案1) 排水機場を中心とする案 ・宇治川排水機場増設 (+12m³/s)</p> <p>(案2) 放水路を中心とする案 ・新宇治川放水路延伸 (L=1.0km)</p> <p>(案3) 洪水調節施設を中心とする案 ・新規遊水地整備 (1箇所)</p>	<p>3案のうち「コスト」について最も有利な案は、「排水機場を中心とする案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「排水機場を中心とする案」による対策が妥当</p>

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
仁淀川河川改修事業 (日下川) 四国地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年8月の台風12号、台風11号に対して、日下川の仁淀川本川への排水能力が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 国・高知県・日高村が連携し、平成26年8月の台風12号と同規模の降雨が発生した場合においても、床上浸水被害を防止。 このうち、国においては、年超過確率1/10規模の降雨が発生した場合において、床上浸水被害を防止。 	<ul style="list-style-type: none"> 国、高知県、日高村が連携し、平成26年8月の台風12号と同規模の降雨が発生した場合においても、床上浸水被害を防止するため、国の対策として年超過確率1/10規模の降雨が発生した場合において床上浸水被害を防止するために複数の治水対策案を立案した。 日下川での適用性を考慮して、「排水機場を中心とする案」「放水路を中心とする案」「洪水調節施設を中心とする案」を抽出して、7つの評価軸（「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」）について評価した。 (案1) 排水機場を中心とする案 <ul style="list-style-type: none"> 排水機場新設 (100m³/s) (案2) 放水路を中心とする案 <ul style="list-style-type: none"> 放水路新設 (L=5.3km、直径7m) (案3) 洪水調節施設を中心とする案 <ul style="list-style-type: none"> 既設調整池 (2箇所) の容量増強 +調整池新設 (2箇所) +放水路新設 (L=5.3km、直径4m) 	3案のうち「コスト」について最も有利な案は、「放水路を中心とする案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「放水路を中心とする案」による対策が妥当